

令和4年度

# 第1回江別市緑化推進審議会

日時 令和4年9月30日(金)

午前10時00分～

場所 野幌公民館研修室3・4号

## 次 第

1 開 会

2 生活環境部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

(1) 報告事項

報告第1号 次期江別市緑の基本計画の策定について

(2) その他

5 閉 会

## 令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

発言者等	内 容
審議会 出席委員	小阪委員、大原委員、郷委員、河村委員、佐賀委員 田原委員、石澤委員、藤岡委員 (計8名)
事務局	金子生活環境部長、斉藤生活環境部次長、田中環境室長、鈴木環境課長、 村田環境課参事、星野環境保全係長、篠原環境保全係主査、 綿谷環境保全係主事 (計8名)
傍聴者	なし
司会	鈴木環境課長
鈴木課長	配付資料の確認
議事（報告案件）進行 小阪会長	
報告事項第1号 次期江別市緑の基本計画の策定について	
小阪会長	報告事項第1号、次期江別市緑の基本計画の策定について、事務局から説明 願います。なお、まずは資料の市の緑づくりの主な取り組み実績まで説明願 います。
星野係長	<p>報告第1号 次期江別市緑の基本計画の策定についてご説明いたします。            本年1月に開催しました前回の審議会におきまして、計画の概要や次期計画            の方向性、策定スケジュールなどをご説明しましたが、本日は資料の表紙の目            次にありますとおり、緑の現況、市の主な取り組み実績、市民の意識・意向、            道の基本方針、そしてこれらを踏まえました緑づくりの課題につきましてご説            明いたします。</p> <p>資料の1ページをご覧ください。            緑地の概況といたしまして、円グラフは市統計書に記載されております地目            別の面積割合です。隣の航空写真とあわせてご覧いただきたいと思いますが、            市街地を囲んで農地があり、田畑が43.7%、宅地が11.4%、航空写真の下            方の大きな緑が野幌森林公園です。市街地の真ん中を斜めに緑の線として鉄道            林が見て取れます。また、市街地のなかにも所々緑の公園があることがわかり            ます。</p> <p>2ページをご覧ください。            緑地の状況としまして、令和3年6月撮影の航空写真を調査し、色分けした            ものが図1-3です。緑色が針葉樹・広葉樹で樹林地として2893.74ha、先ほ            どの航空写真では見えづらかった耕地防風林が農地に平行した緑の線として            見えています。黄色と黄緑が草地で2738.56ha、水色と黄土色、薄いオレンジ            が農地で8169.42haとなっております。樹林地、草地、農地、水面、裸地の            合計である緑被面積は市街化区域内ではH24から約119ha減少しており、市全            体では約166ha減少しています。</p> <p>3ページをご覧ください。            ここからは、現行の緑の基本計画の目標値に対する達成状況の説明となりま            ので、緑の基本計画改定版の25ページとあわせてご覧ください。            緑地の確保の現状と目標達成状況ですが、グラフのとおりまち全体では目標            5860haに対し、5760haで未達、市街地では目標360haに対し320haで未達と            なっています。まち全体では当初のH13の数値からは増加していますが、目標            が大きく、未整備の公園もあることなどから、目標には至っていません。</p>

令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

<p>星野係長</p>	<p>4ページをご覧ください。計画書の25ページ下段の部分です。                  樹林地率の現状と目標達成状況ですが、グラフのとおり、まち全体では目標15%に対し、15%で達成、市街地では目標7%に対し5%で未達となっています。整数で整理しているため、市街地については、小数点以下まで見ますとH13が4.92、H25が6.53、R3が5.42であり、こちらもH13よりは増加しましたが、宅地開発が進んだことなどにより目標には至っていません。                  5ページをご覧ください。計画書は26ページ上段の部分です。                  公園面積の現状と目標達成状況ですが、グラフのとおり、公園面積では目標227haに対し、201haで未達、市民ひとり当たりの公園面積ですが、ここで訂正ですが、グラフでは赤字の目標値がhaとなっており、mの誤りです。目標19.8mに対し16.82mで未達となっています。公園面積については、野幌駅周辺の野幌中央緑地が整備され、面積が増加しましたが、野幌の市街地南側に計画されています東野幌総合公園の整備が行われなかったことにより目標には至りませんでした。一人当たりの面積は目標が大きく、未達ですが、全国平均では一人当たり10m程度、全道平均では40m程度であり、全国平均を大きく上回っています。                  6ページをご覧ください。計画書は26ページ下段の部分です。                  地域制緑地面積の現状と目標達成状況です。地域制緑地とは法や条例などで守られる緑地として、道立自然公園として野幌森林公園や防風林などの保安林、河川区域などの合計です。グラフのとおり、地域制緑地面積では目標5426haに対し、5394haで未達、保存樹林面積は、目標8.72haに対し0.50haで大きく減少し未達となっています。地域制緑地全体では千歳川の江別太遊水地河川区域に指定されたため、H13から大きく増加しましたが、目標には至りませんでした。保存樹林は都市の美観風致を維持するために民有地及び市有地を指定していますが、1カ所の大きな民有地の樹林が所有者の意向により指定解除となったため、大きく減少したものです。                  7ページをご覧ください。計画書は28ページ中段から下段の部分です。                  その他の緑の現状と目標達成状況ですが、グラフのとおり、街路樹本数は目標21000本に対し、24100本で達成、公共施設内樹木本数は、目標28000本に対し18600本で未達となっています。街路樹は国道の延長により増加しています。一方で、公共施設内樹木は増やす目標でありましたが、施設が統廃合などで減少したこと、台風による倒木などにより減少しております。                  8ページをご覧ください。また、計画書の47ページをあわせてご覧ください。                  市の緑づくりの主な取り組み実績ですが、計画書で「市民協働による緑のまちづくり14の取り組み」として4つの矢印で緑をまもる、そだてる、ふれる、ひろげると取り組みが分類されています。                  この分類ごとに主な取り組みをご報告します。                  緑をまもるですが、森林公園や鉄道林、防風林の保全のほか、市内3カ所を環境緑地保護地区に指定しております。                  環境緑地保護地区は、北海道自然環境等保全条例に基づき、市街地及びその周辺のうち環境緑地として維持又は造成することが必要な地区として指定するものですが、米印のとおり令和3年に鉄道林の一部の6.9haが指定解除されております。                  緑をそだてるですが、野幌駅周辺の緑化や公共施設の花壇整備のほか、若草町の一部では緑地協定により宅地に樹木を植えて育てる取り組みが行われています。                  9ページをご覧ください。                  緑にふれるですが、市民植樹など植樹会の実施や名木の観察会、子供たちを対象とした自然環境学習を実施しています。                  緑をひろげるとしては、市民参加による公園再整備や野生生物との共存にかかる啓発、自治会への花の苗の斡旋、緑化専門員を配置し市民の緑化相談を受けるなど取り組んでいます。                  ここまでの説明は以上です。</p>
<p>小阪会長</p>	<p>ここまでの説明に対し、委員から質問、意見をお受けします。まず、私から質問ですが、石狩川付近の河川敷の樹木の増加というのは、植樹で増えたのか、それとも年数を経て、ある程度緑地面積が増えたのか、どちらでしょうか。</p>

令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

<p>星野係長</p>	<p>石狩川の河川敷では、石狩川流域 300 万本植樹という植樹活動もしていますが、ここの写真の場所については、植樹ではなく自然に育ってきた樹木と考えております。</p>
<p>石澤委員</p>	<p>緑を守る活動の中で清掃活動がありますが、四季の道をずっと清掃している団体が高齢化により活動が先細りになってきていることを耳にしたことがあります。そのような団体を応援するような活動はあるのでしょうか。</p>
<p>鈴木課長</p>	<p>四季の道の清掃の活動団体が高齢化が進んでいるというお話ですが、これまでの緑の基本計画でボランティア団体への支援というのは、実は若干取り上げている程度でしたが、今後は高齢化が進むことを考慮して、次期計画に向けて検討していきたいと考えております。</p>
<p>大原副会長</p>	<p>個別というより全体に関してですが、緑の現状について、前回の各種の数値目標に対して、いろいろ取組みを頑張っているにも関わらず「未達」という言葉が多く並ぶと、何か気の毒だなという感じがしてしまいます。 未達という言葉はどう評価するかは、次期計画をつくる時に、その目標を達成するのかとか、具体的な数値目標をどうするかということにも関係すると思います。 例えば緑を「まもる」ことは割とできると思います、特に野幌森林公園がイメージしやすいと思います。しかし「増やす」という目標を考えたときに、例えば太陽光発電の施設ができてしまうと、緑は必ず減ることになります。駐車場になるところもそうです。それらは個人所有地だったりするので、行政として開発を制限することは難しいので、「増やす」ところに関してはどうイメージすればいいのか、少し抽象的な確認になりますがご教示いただければと思います。</p>
<p>鈴木課長</p>	<p>ご指摘の通り、現計画の目標達成状況を見ると、平成 13 年当初の現況の数値に比べて増えている項目が多いのですが、いずれも令和 5 年目標については達成していない項目が多いという点では、やはり反省すべきと考えております。 ただ、この計画が平成 13 年に策定された時は、まず、緑の量を増やしましょうというのが当時の趨勢だったと思います。 当市においても、その流れに沿う形で計画が推進されてきましたが、計画策定から 20 年ほど経ち、その間に社会経済状況が大きく変わってきました。今ご指摘のあった通り、ここ最近脱炭素ということで、太陽光発電やバイオマス発電などに注目が集まっていますし、20 年前の当初は、今ほど人口減少が進むかどうかは、なかなか予想しにくかったと思います。幸い、江別市については、人口減少とまでは言えませんが、伸び悩みは現実としてあると思います。 また、リーマンショックによる景気の低迷、あとは近年この自治体でも人的な面、財務的な面でも、非常に制限が課せられてきており、諸々の社会経済状況が大きく変わってきていることが、この目標を達成することができなかったところに大きく影響しているのではないかと考えております。 ただ、幸いこの後のアンケートの方を見ていただくと、江別市民の皆さんについては、まちの緑の整備とか、量的な面では実はまだ緑は恵まれていると考えられますので、次期緑の基本計画においては後の北海道の方針で説明ありますが、これからの緑については、量よりも質を求め、そしてその今ある緑を活用していく、そちらの方に、注目していくような方向性を打ち出していますし、国の方でもそういった方向性を打ち出しております。これから審議会委員の皆様にもいろいろと議論をしていただきたくですが、流的には今後は質の方を重視していくことが必要だと考えております。</p>
<p>小阪会長</p>	<p>続いて、資料の市民の意識・意向から以降について事務局から説明願います。</p>

<p>星野係長</p>	<p>資料の10ページをご覧ください。</p> <p>市民の意識・意向としまして、今年度実施しました「江別市の環境に関する市民アンケート」からご報告します。</p> <p>アンケートは、本年7月に無作為抽出の市民1300人を対象に郵送で実施し、392人から回答いただき、回収率は30.2%でした。</p> <p>緑づくりに関する満足度ですが、満足、概ね満足と回答した人の割合は「街並み緑化の推進」で37.0%、「森林などの保全」で25.4%となっています。</p> <p>また、「森林などの保全」、「生態系の保全」では、前回H24の結果に比べ、満足度が低下し「街並み緑化の推進」と「農地の保全と活用」で、満足度が上昇しています。</p> <p>11ページをご覧ください。</p> <p>脱炭素社会に向けて必要な取り組みですが、グラフの上から必要と考えられているということですが、赤枠の緑化の推進や森林の適切な維持管理が22.8%と、省エネ、リサイクル、再エネ、コンパクトシティに次いで脱炭素社会に向けて必要だと認知されています。</p> <p>12ページをご覧ください。</p> <p>これは、令和3年度に実施した第7次江別市総合計画を策定するために実施した「まちづくり市民アンケート」の結果ですが、令和3年10月に江別市内に住む18歳以上の方を対象に5000人を無作為抽出し、2059人から回答いただき、回収率は41.2%だったものです。</p> <p>緑の取り組みで大切だと思うことですが、グラフの青で「二酸化炭素の吸収のため、野幌森林公園、公園緑地等の樹木の保全」が46.6%で最も多く、次いでオレンジの「環境教育の推進」28.9%となっています。</p> <p>今後行ってみたい緑に関わる取り組みですが、グラフの灰色の「自宅の緑化」が40.3%で最も多く、次いで青の「公園の清掃活動や花の管理など」が11.6%、オレンジの「街路の花壇などの緑化活動」が10.9%となっています。</p> <p>13ページをご覧ください。</p> <p>公園の取り組みで力を入れてほしいものですが、黄色の「防災のための公園緑地の整備」が33.1%で最も多く、次いで灰色の「市民意見を取り入れた公園施設の整備」が27.4%となっています。</p> <p>ここまでの市民意向のまとめとして、枠内にありますように、これまでの評価、満足度については、特徴的なこととしては、農地の保全活用が上がっており、農地を生かした取り組みが普及・認知されつつあることがうかがえます。また、緑全体については、森林の二酸化炭素吸収源としての役割や、公園の防災や市民ニーズの取り入れなど、質的な充実を期待する意見が多いこと、参加したい取り組みは、身近なところで自宅の緑化が多くを占めており、次期計画ではこれらの意向の反映が求められるところです。</p> <p>14ページをご覧ください。</p> <p>北海道みどりの基本方針ですが、これは平成31年3月に北海道が策定したもので、道内都市圏における、緑地の保全や緑化の推進等に係る方向性を示し、一方で道内の市や町が緑の基本計画を策定する際の指針となるものです。</p> <p>資料では概要として、次期計画の策定にあたり参考になる考え方を抽出したものです。</p> <p>まず左側の、これからの都市のみどりのあり方ですが、「量を確保する時代から質を向上する時代へ」として、みどりが持つストック効果、多面的な機能・効果の創出として環境、防災、レクリエーション、景観などのさまざまな機能を見つめなおすことが重要とされています。さらに、人口減少、高齢化に対応した取り組みも求められます。</p> <p>官と民の連携による取り組みとして、民の力、知見を最大限に活かして都市公園等のみどりの管理運営に関わることが望まれるとされています。緑を柔軟に使いこなす取り組みの実践として、地域の特性やニーズを十分に把握し、反映することや、子育て支援、福祉、農業など、多様な分野との連携強化が求められています。</p> <p>これを受けて、緑の基本計画の策定にあたっては、緑の持つ多面的な機能、効果であるストック効果を最大限に発揮させること、都市公園をより柔軟に使いこなす考え方が重要とされています。</p>
-------------	---

令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

<p>星野係長</p>	<p>15 ページをご覧ください。          ここからは、これまでのみどりの現況や市民の意向、道の方針を受けて、当市の緑づくりの課題として考えられることであります。          まず、緑の確保・整備に関する課題ですが、市民一人当たりの公園面積や街路樹など、緑は「量的に充足している」という認識にたち、今ある緑の適切な保全や維持管理が必要であること、人口減少を見据え、財政規模にあった維持管理や更新、そして、地域の課題解決に貢献する緑の役割は今後も大きいということが挙げられます。          次に、緑の質、機能、役割に関する全体的な課題としては、市民アンケートでも防災のための公園緑地の関心が高いことや、道の方針にもあるように、これまでのみどりの機能をさらに掘り下げ、多面的な機能を発揮させ、地域の課題解決に貢献する緑づくりが必要であり、あわせてSDGs、脱炭素、生物多様性といった取り組みも意識することが必要と考えられます。          16 ページをご覧ください。          緑の質、機能、役割に関する機能別の課題ですが、環境保全システムとしては、市街地周辺の豊かな緑の環境を保全し、学びや交流の場として活用していく必要があることから、野幌森林公園、石狩川、鉄道林、防風林といった骨格的な緑の保全と活用、農地を活かした緑の維持保全、自然と共生する環境の形成、維持が求められます。          レクリエーションシステムとしては、スポーツ、レクリエーション、また、健康増進やコンパクトなまちづくりに資する緑の適切な確保やネットワークの確保が求められます。          防災システムとしては、全国的な自然災害の頻発や市民アンケートでも防災のための公園緑地の関心が高いことから、避難場所や避難路の確保、延焼防止の機能に加え、水害などリスク低減に資する適切な維持、保全が必要であります。          景観構成システムとしては、市民が取り組みたいと思う緑づくりの取り組みの多くは、緑化や清掃活動、花壇づくりなど景観に関するものであり、協働のまちづくりの観点からも重要なことから、生活拠点や産業活動の場における効果的な緑の活用、江別らしい街並み、風景を彩る緑の保全や緑化が求められます。          17 ページをご覧ください。          緑と市民との関わりに関する課題ですが、参加・協働については、道の基本方針でも官民連携によるみどりのマネジメントが重視されていることから、官民連携を含めた緑の維持管理や更新が必要であること、地域や事業者の創意工夫による花や緑づくりの拡大が必要と考えられます。          利活用については、道の方針でも緑を柔軟に使いこなすことが重視されており、野幌森林公園や石狩川での活動や交流の場を継続して確保すること、また、市民アンケートで農地の保全と活用の満足度が向上していることから、農地を活かした交流や活動の場のさらなる確保、コミュニティ維持や地域活性化に資する緑の活用が挙げられます。          情報提供、担い手、体制づくりについては、情報提供として広報・ホームページに加え、SNS等の多様な手段による工夫が必要であり、市民アンケートでは、温暖化や自然環境保全などに理解を深める環境教育の推進にも関心が寄せられていることから、市固有の緑資源を学びの場として活かした緑の保全、緑化の意識醸成が必要と考えられます。          説明は以上です。</p>
<p>小阪会長</p>	<p>ここまでの説明に対し、委員から質問、意見をお受けします。まず、私から質問ですが、資料で農地の保全活用についての評価が上がっていますが、これはどのように考えたらよいでしょうか。具体的に評価を上げている例などがありませんでしたら、ご紹介願います。</p>
<p>鈴木課長</p>	<p>近年江別では、農産物の直売所の開設が多くありまして、野幌運動公園の近隣や国道275沿い、美原地区の方でも、新たな野菜の直売所ができています。他にも小さな直売所もかなりたくさんあって、いずれも非常に繁盛しており、テレビの取材も受けたりしております。そういうところで、市民と農村をつなぐ動きが活発になってきていると思います。</p>

令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

鈴木課長	<p>あとはやはり民間の市民農園さんなども、隣近所の方でもよく農家さんから土地を借りて、家庭菜園をやっているというお話もよく聞きますので、そういったところが活発化してきているのかと考えております。</p>
大原副会長	<p>前回審議会でも説明があったかと思いますが、この緑の基本計画の前に、江別市の都市計画のマスタープランの策定を受けて、というのがあったと思いますが、そちらの進行状況はどうでしょうか。</p> <p>また、都市計画マスタープランを受けて緑の基本計画を策定しなければいけないのか、また今回は、ある程度、全く独立ではないとは思いますがその辺の流れ、位置づけ上は、どのように都市計画マスタープランとの関係を今後考えればよいのか、イメージを把握できればと思います。</p>
鈴木課長	<p>都市計画マスタープランの担当課とはよく情報交換をしておりますが、現在は市民意見の集約などの作業を進めていると聞いております。</p> <p>方針としては、国の方でも謳われているコンパクトシティなど、今の大きな流れに注目して進めていきたい、と伺っております。</p> <p>また、緑の基本計画の担当は環境課ですが、その内容は、まちづくりが大きな部分を占めております。そのまちづくりの根本的な計画というのは都市計画課で所管している都市計画マスタープランになりますので、そこ連携をしながら、当然相入れない内容となることにはなりませんので、今後、調整しながら策定を進めていきたいと考えております。</p>
大原副会長	<p>全体的なマスタープランの中で、例えば緑の基本計画の策定にあたり、ここはちょっと厳しいとか計画間のやりとりが今後生じるということで理解しました。</p>
河村委員	<p>レクリエーションシステムの課題に関して、緑の環境が多い中で、これを生かすとなると、テレビで見るとようなニセコなどのアドベンチャー的な遊びなどを江別に取り込めないのだろうか、と思っています。今は少なくなっているのか、アスレチック的な親子が遊べる運動施設のようなものは、市内にたくさん公園があるものの、ちょっと目にしたことがないので、そういう施設をつくる動きはあるのでしょうか。市内にそういうところが1ヶ所ぐらいあってもいいと思いましたが、いかがでしょうか。</p>
鈴木課長	<p>公園の遊具についてですが、公園の遊具に限らず、施設の配置などについては、公園担当の都市建設課で年に1ヶ所ずつ、周辺住民の皆さんの意見を聞きながら、公園の更新を計画的に進めています。</p> <p>その中で、周辺住民の皆さんから、そういったアスレチック的な施設など、要望があれば検討して、計画や建設に生かしていく形になると思います。</p>
小阪会長	<p>最近、台風など非常に風が強くて風倒木があちこちで見られますが、その処理はもちろん必要だが、例えば、非常に景観が良いところで被害が出た場合に、今後そういったところにさらに植樹するとか、そういう考えは基本的に持っているのでしょうか。</p>

## 令和4年度 第1回江別市緑化推進審議会 会議録（要旨）

鈴木課長	<p>現計画についてはそういった面について記載はされていませんが、最近は激しい災害が多発してきておりますので、そういった取り組みも十分考えられると思います。</p> <p>そういったことも、次期計画の中で検討していきたいと思います。</p>
小阪会長	<p>他にありませんか。</p> <p>なければ、報告案件について終了してよろしいでしょうか。</p>
委員	一同了承
小阪会長	<p>それでは、今後も策定作業を進めていただきますようお願いいたします。</p> <p>最後に、次第4（2）「その他」について、事務局から説明願います。</p>
星野係長	<p>次回の日程ですが、冬の時期に第2回の審議会を開催し、次期計画の基本理念などをご審議いただくことを考えております。その際は、事務局からご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
小阪会長	<p>委員の皆さんからその他、全体を通して何かありませんか。</p>
委員	特になし。
小阪会長	<p>以上で本日の案件はすべて終了いたしました。</p> <p>本日は、熱心にご議論いただき、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">（11：10 終了）</p>